

令和2年度日本水環境学会東北支部セミナー 開催報告

作成 相澤 幸太

期 日：2020年10月24日（土） 13:30～15:50

場 所：オンライン開催（Zoom）

参加人数：17名

セミナータイトル：「宮城県の水環境の現状と課題」

1. 開会挨拶

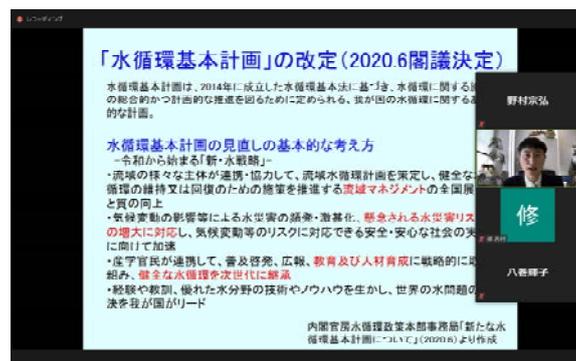
- ・西村支部長より開会の挨拶

2. 講演

①「宮城県の水環境の概要と課題」 東北工業大学工学部 山田一裕氏

- ・近年の水環境問題のトピックスとして「気候変動」や「海洋プラスチックごみ汚染」が挙げられ、対策が取られつつあるとのこと。

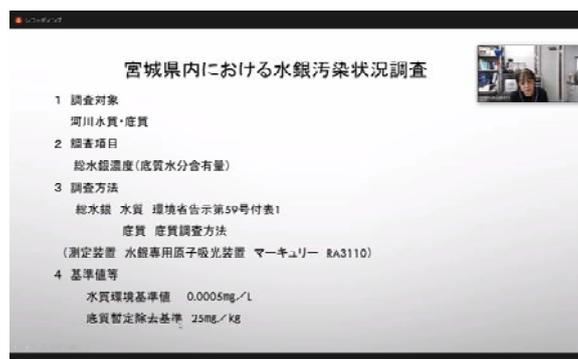
宮城県における「水循環基本計画」の改定にあたり、他に震災の復興事業における環境配慮も必要であり、県民の意識としては水害に対しての対策に多くの関心があることも示された。また、水辺の環境として特に湖沼と海域の水質向上が必要とのことであった。



②「宮城県内における水銀汚染状況調査」 宮城県保健環境センター水環境部 後藤つね子氏

- ・冒頭に宮城県保健環境センターについての説明があった。

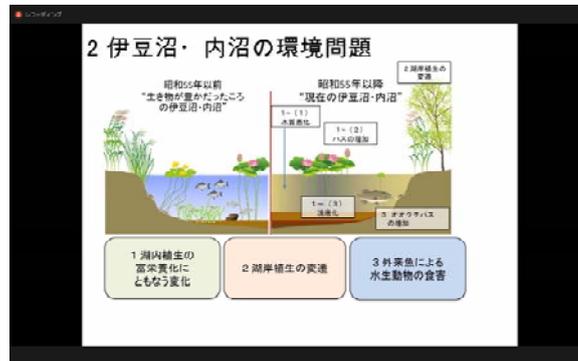
県内の水銀汚染状況を把握するための調査についての報告があった。各試料採取地点の状況や試料(底質)の測定結果についての詳細な説明があり、すべての地点で暫定除去基準「25mg/kg」を大幅に下回ったが、乾燥減量(含水率)が高く粒度の小さいシルト質の底質試料で高い水銀量を示す傾向があることが分かった。



③「伊豆沼の水質管理と外来種駆除活動」 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 藤本泰文氏

- ・伊豆沼・内沼は東アジア最大級のオオクチヨウの越冬地であることや全国最大のハス群落があることなどの特色が紹介された。

沼が抱える問題として外来種であるオオクチバスによる生態系への影響があり、オオクチバス駆除活動とその後の生態系の復元状況について報告があった。また、ハスの増加による水質悪化や浅底化も問題となっていて、ハスの管理技術の開発等の対策をとっているとのことであった。



3. 閉会挨拶

- ・玉置企画部会長より閉会の挨拶